

6/28 河川環境美化活動で表彰

公益社団法人日本河川協会が昭和24年から行っている「河川功労者表彰」において、徳蔵区（徳蔵上自治会、徳蔵下自治会）が表彰されました。

徳蔵区では、昭和30年頃から地域を流れる藤井川などの除草、清掃活動をしており、その功績が認められました。



阿久津町長から、山口榮徳蔵区長に表彰状が伝達されました。



◀毎年実施している河川清掃活動の様子

7/7 多くの人でにぎわう初夏的那珂川 那珂川河川敷

毎年恒例の川魚つかみどり大会（同実行委員会主催）が開催され、町内外から家族連れなど約1,000人が参加しました。

那珂川の河川敷に作られた特製のいけすにニジマスが放流されると、開始の合図を待つ参加者から一斉に「ワアッ」と歓声がわきあがりました。



また、同じ会場で催され「那珂川水辺のオープンカフェ」（国土交通省、城里町、道の駅「かつら」協働で実施）では、川に関するクイズラリーや、那珂川に生息する水生動物の観察、パネル展示などが行われました。



叙勲受章おめでとうございます

春の叙勲／瑞宝小綬章【消防功労】

小林 一也 さん（高久）

昭和34年4月に神奈川県川崎市に消防士として採用されてから、平成10年3月に川崎市の消防正監として退職されるまでの39年間消防業務に従事されました。

小林さんは、「戦後に新しい土地へ移り住んだため苦労も多かったが、『一生懸命勉強して偉くなるんだ』と叱咤激励してくれた母のおかげで、叙勲



をいただくことができました。」と話されました。

町内にお住まいの叙勲受章者の方で広報紙へ掲載のご了解をいただける方は下記までご連絡ください。
連絡先 総務課 広報担当 ☎029-288-3111（内線211）

7/6 茶の出荷再開を県知事に報告

昨年3月に起きた福島第一原子力発電所の事故による影響で、2年ぶりとなった古内茶と七会茶の出荷再開を報告するため、JA水戸古内茶生産組合（加藤隆文組合長）とJA茨城中央七会茶生産部会（飯村吉伊部会長）らが、茨城県庁を訪問しました。

昨年は枝を深く刈り込んで茶木の除染を行ったため、生産量は一昨年の6割程度となったものの、出来は良好であることを橋本知事に報告し、新茶を振る舞いました。

橋本知事からは、「頑張って産地を盛り上げてほしい」と激励の言葉が贈られました。



6/27 町長も自転車でノーマイカーデーに参加

城里町役場では、公共交通利用促進及び地球温暖化防止に取り組むため、6月18日から7月1日までの期間、マイカー通勤を控えるノーマイカーデー（ウィーク）を実施しました。期間中、のべ42人の職員がこの取り組みに参加し、町長も自転車で登庁しました。



6/8 継続できる省エネ対策を！ 常北公民館

公民館定期講座「寿大学」では、地球温暖化と家庭における省エネをテーマとした講座が開催されました。

講座では、茨城県地域温暖化対策室の職員が、地球温暖化防止のためには、二酸化炭素排出を抑える必要があり、その1つの方法が「節電などの省エネ対策」であること。また、「省エネ対策は、長続きするように負担の無い範囲で行うことが大切である。」と講演し、続いて関東電気保安協会の職員から、家庭でもすぐに取り組むことができ、家計にもやさしい省エネの方法が紹介されました。



6/9 家庭教育学級を開催 常北保健福祉センター

第1回家庭教育学級が開催され、講師に大坪宏至先生（東洋大学教授）を迎え「わが国のしつけを考える・おたくのしつけも考える」と題した講演会が行われました。

講演会では、子どもの生活習慣に関するアンケート調査の結果をもとに、「しつけ」の大切さについて学びました。

参加者からは「しつけについて考えさせられた」「子どもたちと一緒に過ごす時間を増やしたい」などの感想が聞かれました。



6/24 ホロルの湯が開館10周年を迎えました ホロルの湯

ホロルの湯開館10周年記念式典が行われ、平成23年度中の利用回数が多かった10人の方に、町長から表彰状が贈呈されました。

最も利用回数が多かったのは、水戸市からお越しの田口恒夫さん、美栄子さんご夫妻（ホロルの湯開館日数298日中265回利用）でした。

田口さんご夫妻は、健康のためにと7～8年前からホロルの湯を利用されており、来ているうちに友達も増え、今ではほぼ毎日利用されているそうです。



ホロルの湯の▲最多利用者の田口恒夫（写真左）さん、五町支配人は、美栄子さん（写真中央）ご夫妻「昨年度の利用回数が200回を超える利用者は44人。ホロルの湯は年間約24万人に利用されており、来夏ごろには300万人に到達する見込みです。ホロルの湯には会員制度や町民が12回まで半額で利用できる制度もあるので、ぜひ活用してほしい。」と話していました。

6/23-24 花しょうぶまつり開催 青山花しょうぶ園

梅雨を代表する花「ハナショウブ」が見ごろを迎えた青山花しょうぶ園で、2日間にわたり花しょうぶまつりが開催されました。

今年は昨年よりも公開範囲が広がり、さらに多くの花を楽しむことができました。

また、会場ではハナショウブ苗の販売や七会中吹奏楽部などのミニコンサートなどが催され、ハナショウブ苗を求める人や、ステージで行われるイベントを楽しむ人でにぎわいました。



6/9-10 プロのジャッジを体験
うぐいすの里グラウンドほか

サッカーJ1リーグで主審を務める岡部拓人さんを審判に迎え、桂サッカースポーツ少年団と水戸市のサッカー少年団による交流試合が行われました。

また、試合の後には講演会が行われ、少年団の選手たちは、岡部さんから貴重なアドバイスを受けることができました。



▲岡部さんと桂サッカースポーツ少年団

桂ミニバススポーツ少年団県大会出場
水戸市総合運動公園体育館

桂ミニバススポーツ少年団が、6月3日～10日に行われた関東スポーツ少年団茨城県中央地区大会(24チーム参加)で準優勝し、県大会に出場しました。

また、6月16日、17日の2日間、水戸市総合運動公園体育館で行われた県大会では、ベスト8の成績を収めました。



▲桂ミニバススポーツ少年団

6/28 サッカーの楽しさを学ぶ
ななかい保育所

水戸ホーリーホック・クラブアカデミーの磯前義剛コーチと宮本佑樹コーチがななかい保育所に来所し、4歳児、5歳児を対象にサッカー教室が行われました。

サッカーをするのは初めてという園児もいたため、ボールに慣れるための基本の運動と、コーンポストやゴールネットをめがけてボールを蹴る練習をしました。

園児たちは、夢中になってボールを追いかけて、サッカーを楽しみました。

最後に、コーチが「またサッカーしたい人？」と聞くと園児たちは「はい」と元気に答えていました。



5/27 町内親善バレーボール大会
常北公民館体育室

町内5チームが参加して行われた大会の結果は、以下のとおりです。

優勝 躍動美人
準優勝 平成ボーイズ 第3位 ドリーム



▲優勝 躍動美人

福島県南相馬市に
消防車6台を寄贈

町では、老朽化による車両の更新と消防団組織見直しにより、不用となった可搬式の消防車6台を福島県南相馬市に寄贈しました。

消防車は、導入後25年から30年が経過しているものの、まだ使用できる車両であるため、東日本大震災の被災地で活用してもらえればと、受け入れ先の自治体を探していたところ、南相馬市から消防車を受け入れたいとの要望がありました。

南相馬市は、東日本大震災による津波で600人以上が犠牲となり、消防団員9人が殉職、10台以上の消防車が津波に流される被害を受けました。

消防車の寄贈を受けた南相馬市の桜井市長からは、「大切に使用させていただきます。」と謝辞をいただきました。



▲阿久津町長から消防車の贈呈を受ける桜井南相馬市長と南相馬市消防団の皆さん(6月28日、南相馬市にて)